

1. 発掘区全景（西から）



2. 発掘区全景（東から）

元 興 寺 旧 境 内

発掘調査報告

例 言

1. 本書は、昭和55年度国庫補助事業として奈良市教育委員会が平城京元興寺旧境内の2箇所で行った発掘調査の報告である。
1. 発掘調査は、鵜町16番地の調査が昭和55年7月28日から同年8月1日にかけて行い、芝新屋町16番地の調査は昭和56年1月21日、22日に実施した。
1. 発掘調査は、奈良市教育委員会社会教育部文化財室が行ない、芝新屋16番地の調査については、奈良県教育委員会文化財保存課の協力をうけた。担当者は下記のとおりである。
(鵜町16番地の調査) 奈良市教育委員会 森下恵介 篠原豊一
(芝新屋町16番地の調査) 奈良県教育委員会 関川尚功
奈良市教育委員会 阿部 誠
なお調査補助員としては、奈良美穂、中西洋子、橋本雅裕、鄭喜斗、平山淳(奈良大学)、武井利道(立命館大学)、中川正明(関西学院大学)諸氏の参加があった。
1. 現地調査では、土地所有者の、上手康弘、清水新太郎両氏の御協力をいただき、奈良市教育委員会奈良市史編集室の方々より御教示、協力を得た、記して感謝したい。
1. 本書の執筆は、Ⅱ-2を阿部誠が行い、他は執筆ならびに編集を森下恵介が行なった。

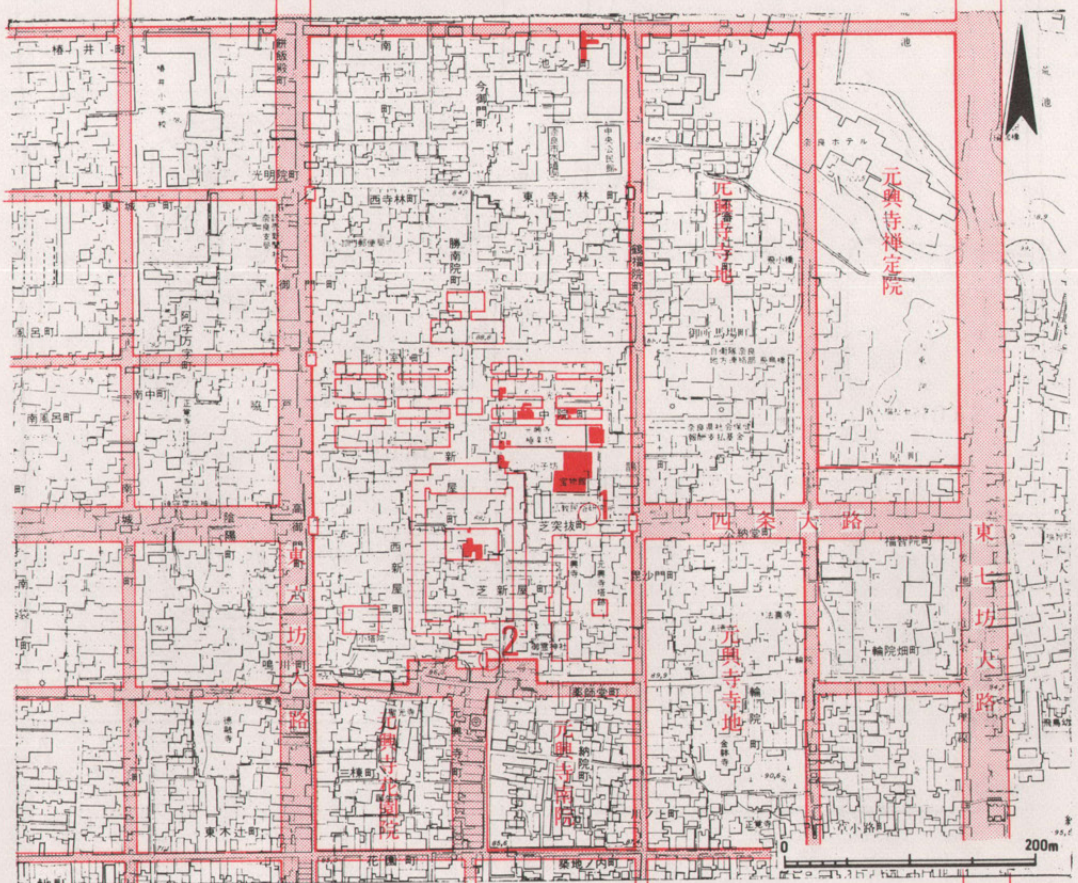
目 次

I はじめに	121
II 調査の成果	122
1. 鵜町16番地の調査	122
(A) 検出遺構	122
(B) 出土遺物	123
2. 芝新屋町16番地の調査	125
III ま と め	125

I はじめに

元興寺旧境内は、平城京左京五坊の四条から五条にかけて、南北5町、東西3町を占める大規模なものである。しかしながら、古くから、元興寺の衰微とともにその寺地には町家が建ち、現在では主要伽藍付近は過密化した市街地となっており、わずかに極楽坊禅室として残る東室南階大房の一部と史跡指定されている塔跡がその名残りをとどめている。現在までに行われた発掘調査には、極楽坊境内における発掘調査の他、金堂跡、北辺築地付近の発掘調査などがあるが、主要伽藍の位置についても推定の域を出ない部分が多い。今回は、旧境内に含まれる鵠町16番地、芝新屋16番地の2ヶ所において民家が改築されることになり、それに伴う事前調査として発掘を実施した。いずれもその敷地面積が狭いため小規模な調査にとどまった。

	位 置	所 有 者	調 査 期 日
1	奈良市鵠町16番地	上 手 康 弘	昭和55年7月28日～昭和55年8月1日
2	奈良市芝新屋町16番地	清 水 新 太 郎	昭和56年1月21日、1月22日



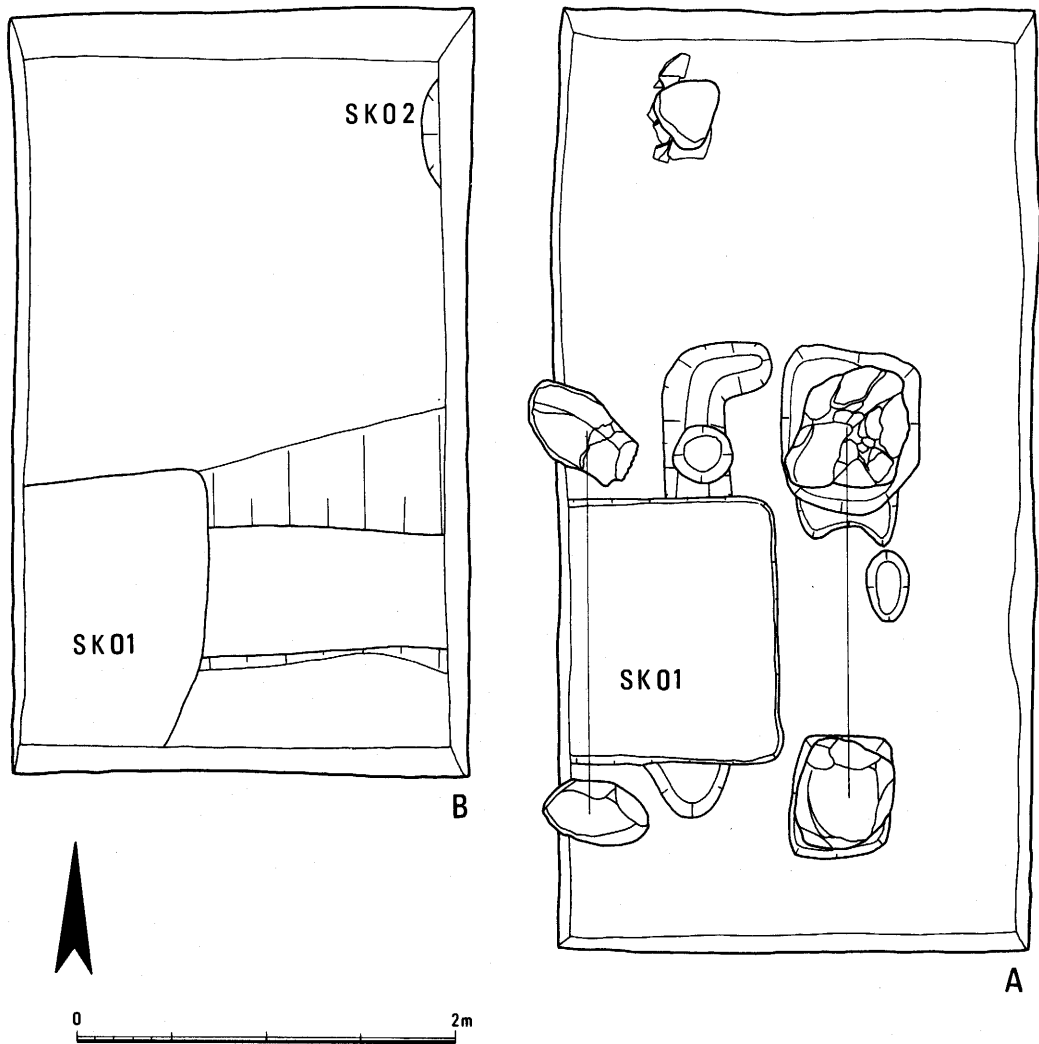
第1図 発掘地点の位置 (1/6000)

II 調査の成果

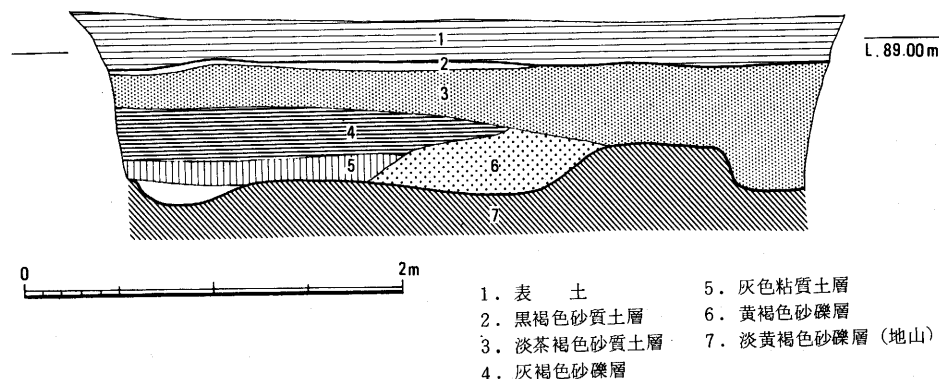
1. 鵜町16番地の調査

調査地点は、元興寺東面南門の推定地点の西約20mの地点で、極楽坊境内の南に隣接する。東西2.5m、南北5mのトレンチを設定したが、調査の進行段階で排土や隣接家屋との関係上支障を生じたため、南北4mのトレンチに縮小した。

(A) 検出遺構 (第2図、図版1)



第2図 検出遺構平面図 (1/40)



第3図 発掘区東壁堆積土層図(1/40)

調査地の土層は、地表面より約20cmまでが壁土、漆喰、焼土塊、近世遺物を含む表土層であり、その下には、4～5cmの厚さの黒褐色砂質土が広がる。この層の上面は堅く、近世民家のもと思われる礎石を検出するとともに、トレンチ西南において方形の土壇、SK01を検出した(第2図A)。礎石は、南北2m、東西14mの間隔に並ぶ。東側の2個は掘形の中に扁平な自然石をすえ、礫、瓦片を根石として使用するが、西側の2個は直接地表面にすえつけるだけで、上面の高さも東側のもとの異なる。礎石には、その上面が付煤しており、亀裂を生じているものもあり、火災をうけたことがうかがえる。SK01は、埋土が灰黒色土で、多量の近世の瓦片、焼木片が出土した。遺物の状態からみて、火災時の残焼物投棄のために掘削されたものと考えられる。

黒褐色砂質土の下は、淡茶褐色砂質土層、灰褐色砂礫層、灰色粘質土層とつづき、地山である淡黄褐色砂礫層に至る。地山上面(第2図B)ではトレンチ東北隅で、土壇(SK02)を検出した。SK02は、その大部分が発掘区外に広がっており、その規模を明らかにするまでにはいたらなかったが、土師器皿が多数出土した。また地山上面はトレンチ南寄りで東西にのびる高まり(幅約50cm、高さ約30cm)をもっており、なんらかの施設の基底部とも考えられるが、調査範囲が狭小なことから明らかにしえなかった。

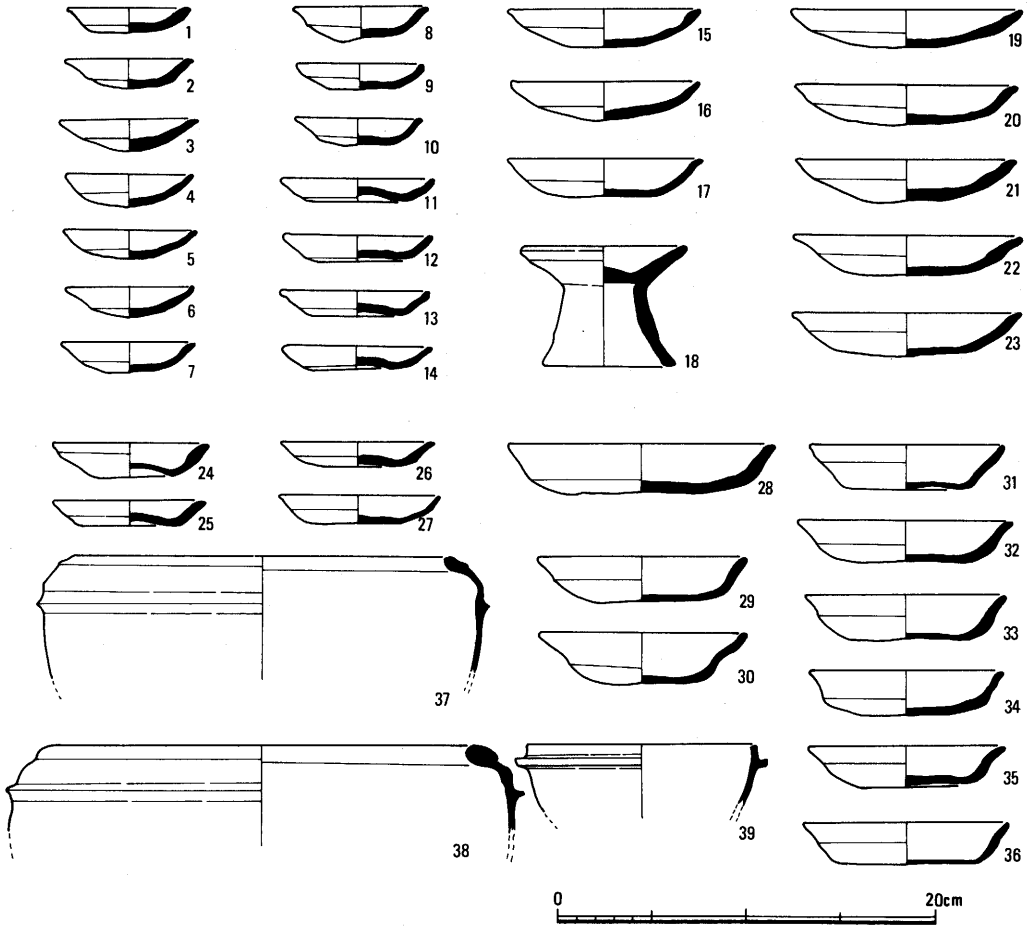
(B) 出土遺物(第4図、図版2)

表土、黒褐色砂質土層、土壇SK01から出土した近世の遺物と、土壇SK02から出土した中世の遺物がある。

近世の遺物には、土師器皿(1～17、19～23)、土製燭台(18)、陶磁器(40～48)、泥面子(49～52)、土人形(53)、銭貨(54、55)、がある。土師器皿は、大きさによって口径約7cm、器高2cm未満のもの(1～10)、口径約8cm、器高2cm未満で広い底部をもつもの(11～14)、口径10～12cm、器高2.0～2.4cmのもの(15～17、19～23)に分けられる。いずれも内面および口縁部外面上半によこなでを施す。色調は淡黄褐色、灰褐色を呈する。

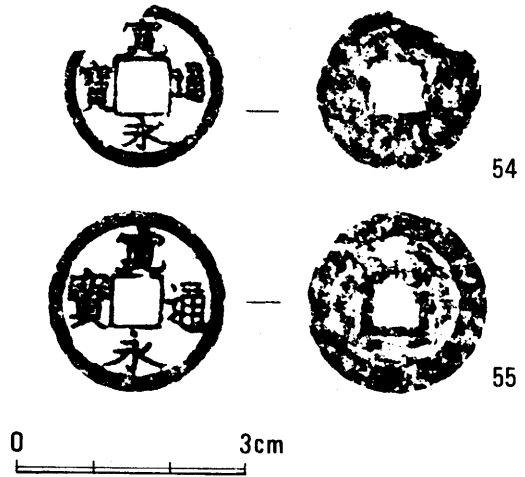
SK02より出土した遺物には、瓦器碗片、土師器皿、土師器羽釜がある。土師器皿(24～36)は、口

II 調査の成果



第4図 出土土器(1/4)

径8cm前後、器高1.4～2.0cmのもの(24～27)、口径11cm、器高2.0cm前後のもの(29～36)、口径14cm、器高2.8cmのもの(28)に分けられる。いずれも内面および口縁部外面上半部によこなでを施す。色調は茶褐色～赤褐色を呈し、胎土中には砂粒を多く含む。24はやや上げ底気味のもので口縁部には油煙状の黒色物質が付着している。土師器羽釜(37～39)には、口縁部を外側へ折り返し、断面三角形の突線状の罫をもつもの(37、38)と小型で口縁端部上面に平坦面をもつもの



第5図 出土銭貨拓影(1/1)

(39)がある。37、38は、器壁が薄く、胎土はきめこまかい。いずれも淡黄白色を呈し、よこなでが全体に施されている。時期は室町時代でも比較的早い時期と考えておきたい。

2. 芝新屋町16番地の調査

調査地点は、元興寺南大門推定地である。発掘調査では南北1.5 m、東西4 mのトレンチを設定した。近現代の攪乱が著しいが、地表下、約30cmに暗黄色粘土層が発掘区全域に広がっているのが確認された。南大門基壇の整地土とも考えられるが、二次的に動かされているものらしく、その下層からは基壇築成土と考えられる明確な土層は確認できず、発掘区の制約からこれ以上の成果は望めなかった。出土遺物は少なく、近世の土師器皿、瓦片、銭貨(寛永通寶)があり、奈良時代のものでは平瓦片数点が出土したにすぎない。

Ⅲ ま と め

今回の2ヶ所の発掘調査は、いずれも民家の改築に伴う事前調査といった性格上、制約を受ける部分が多く、小規模な調査にとどまり、発掘調査の成果も、元興寺の遺構について得られたものは少ない。しかしながら、鶴町16番地の調査では、中近世の奈良町についての資料を若干であるが得ることができ、元興寺旧境内の調査が、中近世の奈良町の調査でもあるといった点からは、ある程度の成果をあげたものといえよう。

奈良町の中心部として発展してきたこの地域の民家は、近年その耐久年数に近づき改築工事が行われはじめている。小規模な調査とはいえ、それぞれの累積が、元興寺の解明につながると同時に中世・近世の奈良町の調査である点を改めて認識し、今後に望みたい。

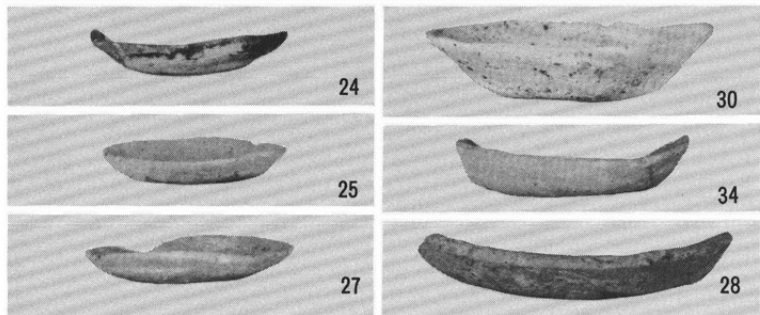
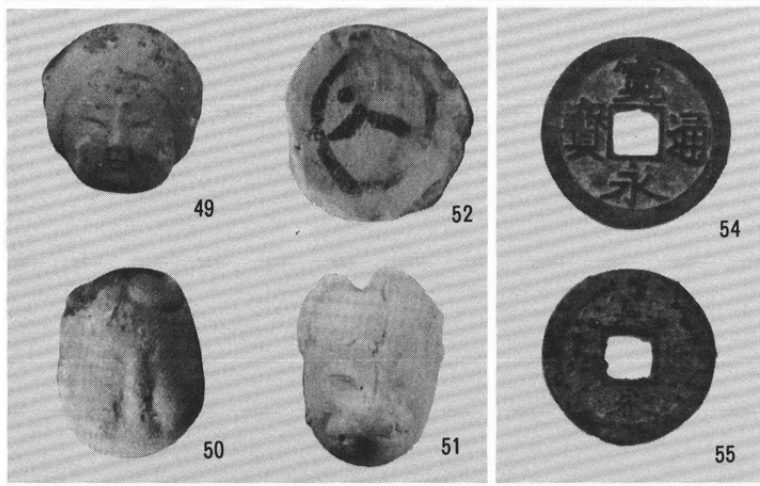
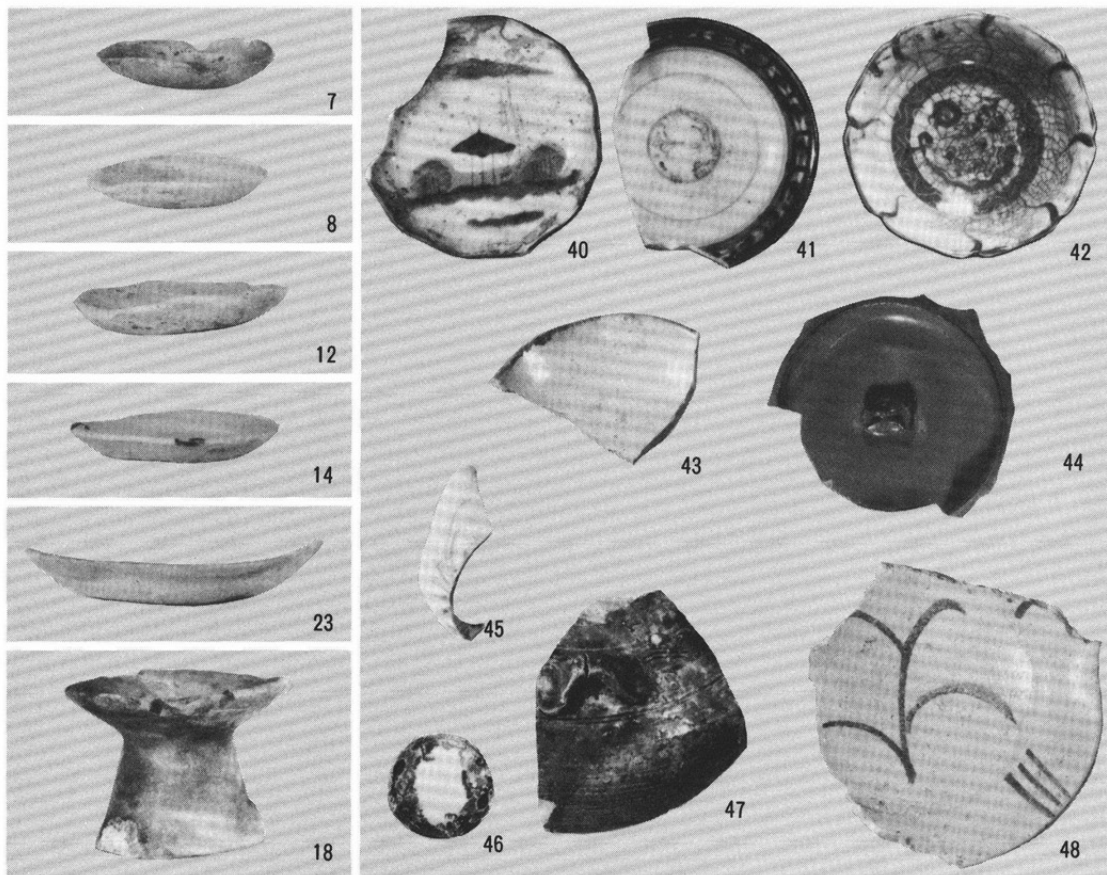
圖 版



1. 発掘全景、黒褐色砂質土上面(北から)



2. 発掘区全景、地山上面(北から)



東大寺旧境内

発掘調査報告

例 言

1. 本書は、東大寺旧境内（史跡指定地内）の現状変更（民家改築）にともなう事前発掘調査の報告である。
1. 調査は昭和55年度国庫補助金の交付を受けて行なったものである。
1. 発掘調査は、奈良市教育委員会社会教育部文化財室が行い、阿部誠、篠原豊一が現地調査を担当した。なお調査補助員として奈良美穂、友貞菜穂子（奈良大学学生）、青木郁恵、藤田悟己、北島健次（奈良教育大学学生）、諸氏の参加があった。
1. 発掘調査にあたっては、所有者の松本 太氏の御理解と御協力を得た。
1. 本書の執筆ならびに編集は篠原豊一が行った。

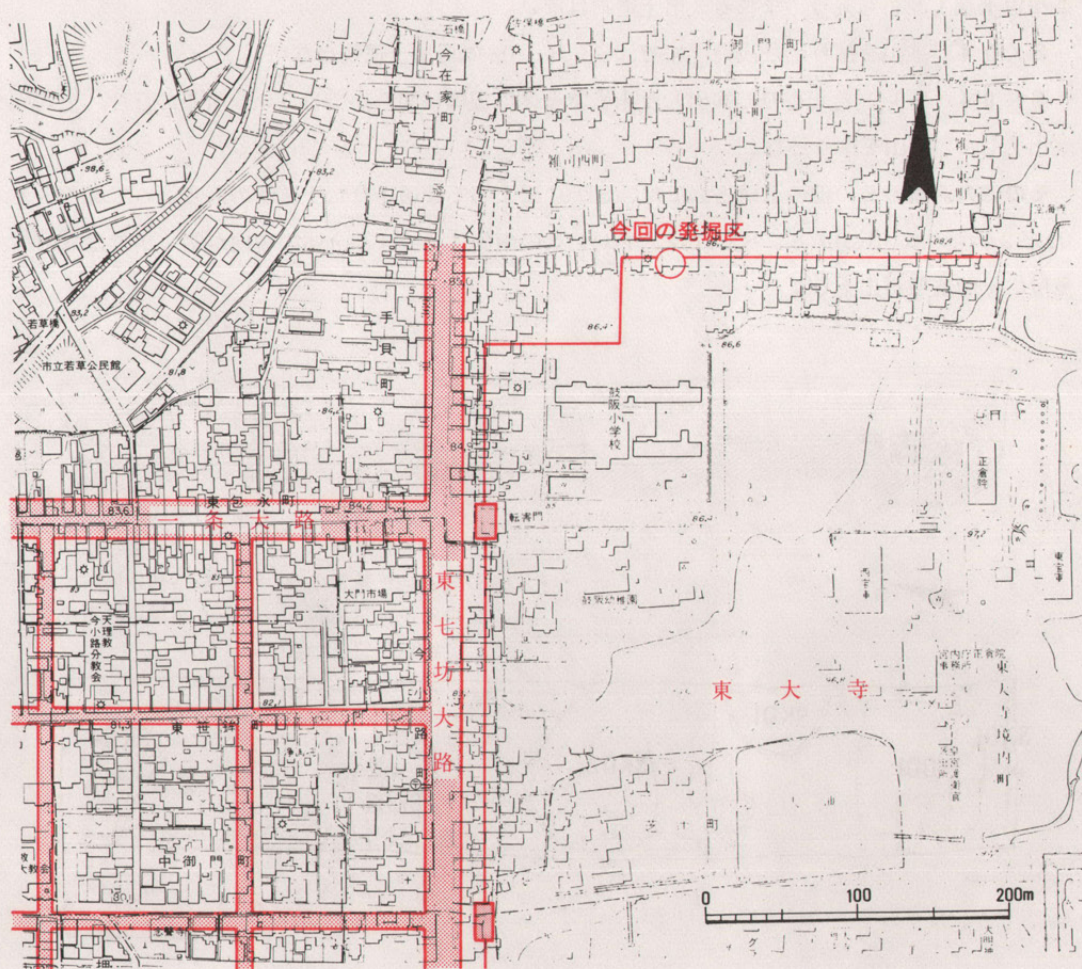
目 次

I はじめに	127
II 検出遺構	128
III 出土遺物	129
IV ま と め	131

I は じ め に

本調査は、奈良市雑司町112-3番地、における民家改築に伴う事前発掘調査として実施したものである。調査地は東大寺北面大垣推定地に位置し、近世まで存在した塔頭清浄院の一面に相当する。このため、発掘調査では北面大垣の確認を目的とし、南北にトレンチ（幅1.6m、長さ10m）を設定した。発掘面積は16㎡である。発掘調査は昭和55年8月25日より同年9月5日までおこなった。東大寺の築地大垣については、西面築地について、発掘調査で確認されており、南面築地についてもその規模が知られている。今回の調査においても同様の成果が期待されたが、残念ながら、築地の確認はできなかった。

注) 奈良県教育委員会『東大寺西面大垣跡発掘調査概報』1977



第1図 発掘区的位置 (1/5000)

II 検出遺構

II 検 出 遺 構

調査地における土層の堆積状況は、現在の地表より20cm下までが淡黒色土で、改築前の住宅基礎が存在した。以下上から順に、暗茶褐色土、淡茶褐色砂質土となり、地山である黄褐色粘質土に至る。検出した遺構は、溝1条、土坑4ヶ所、が主なものである。

SD01 トレンチ南寄りで検出した東西溝（幅約1.0m、深さ約0.8m）である。暗茶褐色土層上面より掘り込まれている。埋土は黒灰色礫層で、瓦片、土器片、陶磁器片が出土した。出土遺物から近世のものであることがわかる。

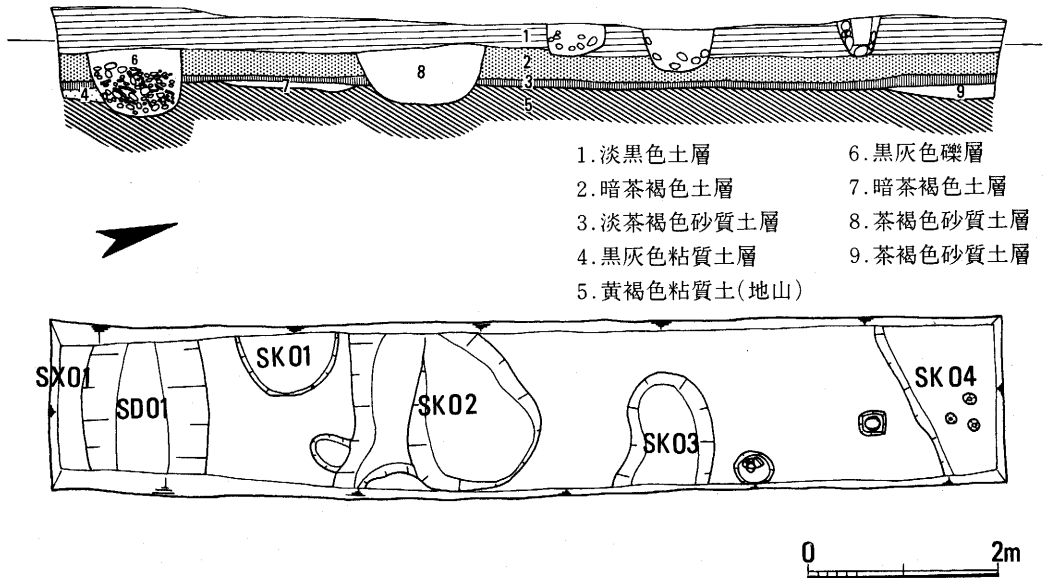
SK01 地山を掘り込む浅い土坑で、埋土は暗茶褐色土である。出土遺物はない。

SK02 トレンチのほぼ中央で検出した不定形の土坑（最大幅2.0m、深さ約0.8m）で、暗茶褐色土層上面から掘り込まれる。出土遺物はない。

SK04 地山を掘り込む浅い土坑で、SK01、02同様出土遺物はない。

SK04 トレンチ北寄りで検出した土坑で全体の規模は明らかではない。若干の瓦片、土器片が出土した。地山を掘り込む。

その他の遺構 その他の遺構としては、SD01によって破壊された土坑状の落ち込みであるSX01と2ヶ所のピットがある。SX01は、トレンチの南側につづき、全体の規模が明らかではないが、多量の土師器皿が出土した。

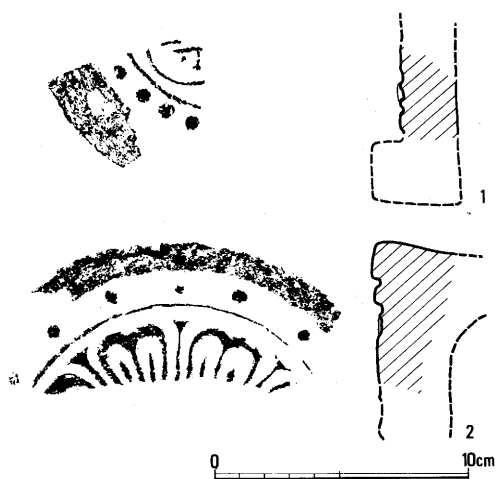


第2図 発掘区堆積土層図、検出遺構平面図(1/80)

Ⅲ 出土遺物

出土した遺物には、瓦類、土師器皿、陶磁器、銭貨などがある。ここではSD01より出土した瓦類、SX01より出土した土師器皿を中心として紹介するにとどめる。

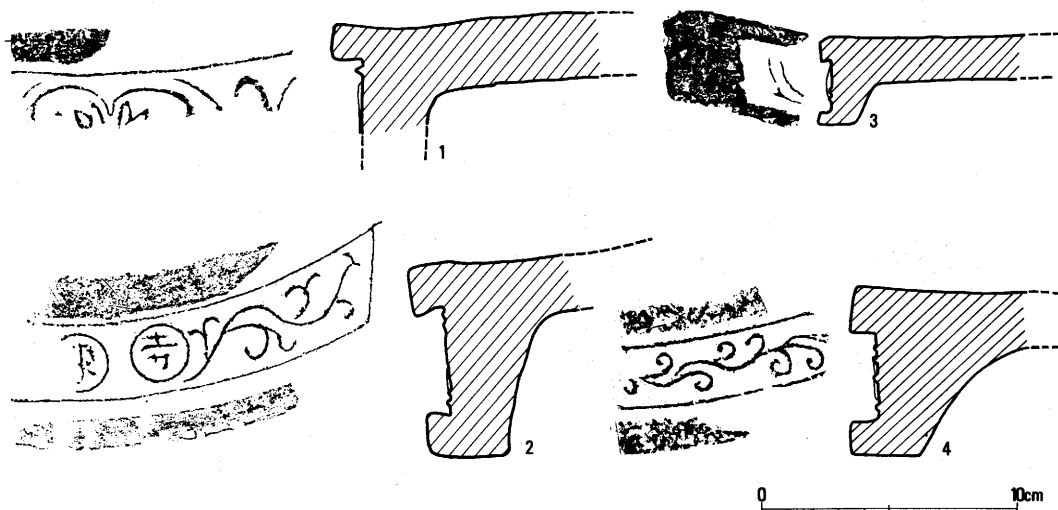
1. 瓦類（第3、4図、図版2）



第3図 出土軒丸瓦 (1/3)

軒丸瓦2点、軒平瓦3点の他、丸瓦、平瓦が若干ある。

軒丸瓦（1、2） 1は、内区に円環内に東大寺の文字を1字づつ入れて配するもので内、外区を圏線で区切り、外区内縁には珠文を配する。外縁は一段高くつくられる。鎌倉時代以降のものであろう。2はいわゆる「東大寺式」と呼ばれる複弁八弁蓮華文軒丸瓦である。蓮弁の反転は少なく、瓦当面が平坦であり、外区外縁の幅がやや広く、高さも低く、奈良時代でも時期は降るものであろう。



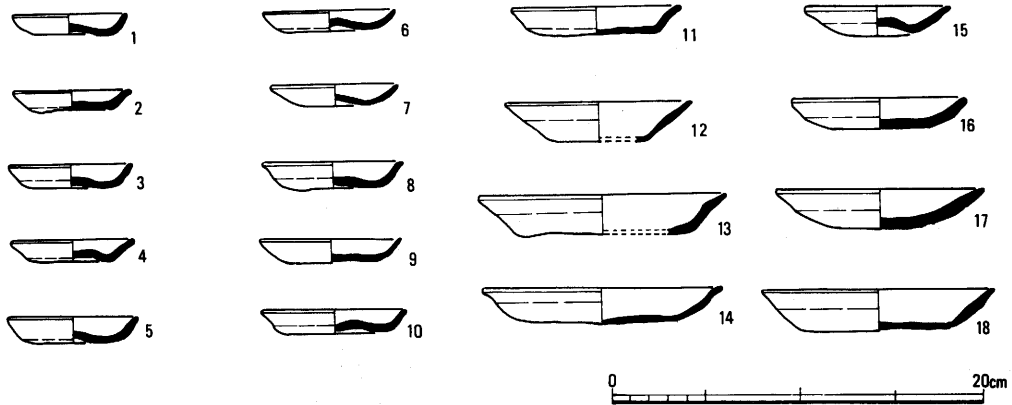
第4図 出土軒平瓦 (1/3)

Ⅲ 出土遺物

軒平丸（1～4） 1は、瓦当面中央上半部しか遺存しておらず、瓦当文様についても明らかでない部分が多いが、中心に宝相華文を飾る均整唐草文軒平瓦であることがうかがえる。2は中央に「東」、左に「大」、右に「寺」の三文字を円環内に配し、その左右を唐草文で飾るもので、鎌倉時代、東大寺再建時の瓦であることが知られている。3は、大きさも小さく、瓦当両端の外縁を広くとっており、近世のものである。4は、瓦当文様の全体が明らかではないが、上向きと下向きに巻き込む細かい唐草文を配するもので、時期は室町時代に求められよう。

2. 土器類（第5図、図版2）

SX01より出土した土師器皿（1～14）と暗茶褐色土層を中心とした乞含層より出土した土師器皿（15～18）がある。包含層より出土したものについては、近世のものも含まれている。SX01出土のものは、小破片が多く、すべてを図示し得なかったが、口径6～8cm器高約1cmのもの（1～10）がほとんどを占める。口縁部をよこなでで仕上げ、色調は淡褐色である。

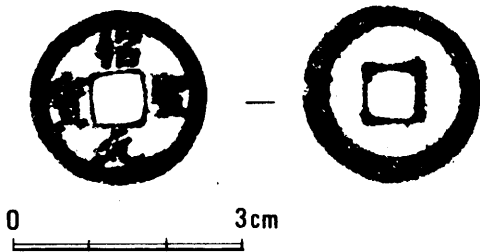


第5図 出土土師器皿（1/4）

3. その他の遺物

その他の遺物として銭貨、陶磁器片がある。銭貨は「紹聖元寶」（北宋紹聖年間、1094～8年初鑄）1点が出土した。

陶磁器片は、SD01より出土したものが、量的に多いが、いずれも近世のものであり、今回は記述の対象とはしない。



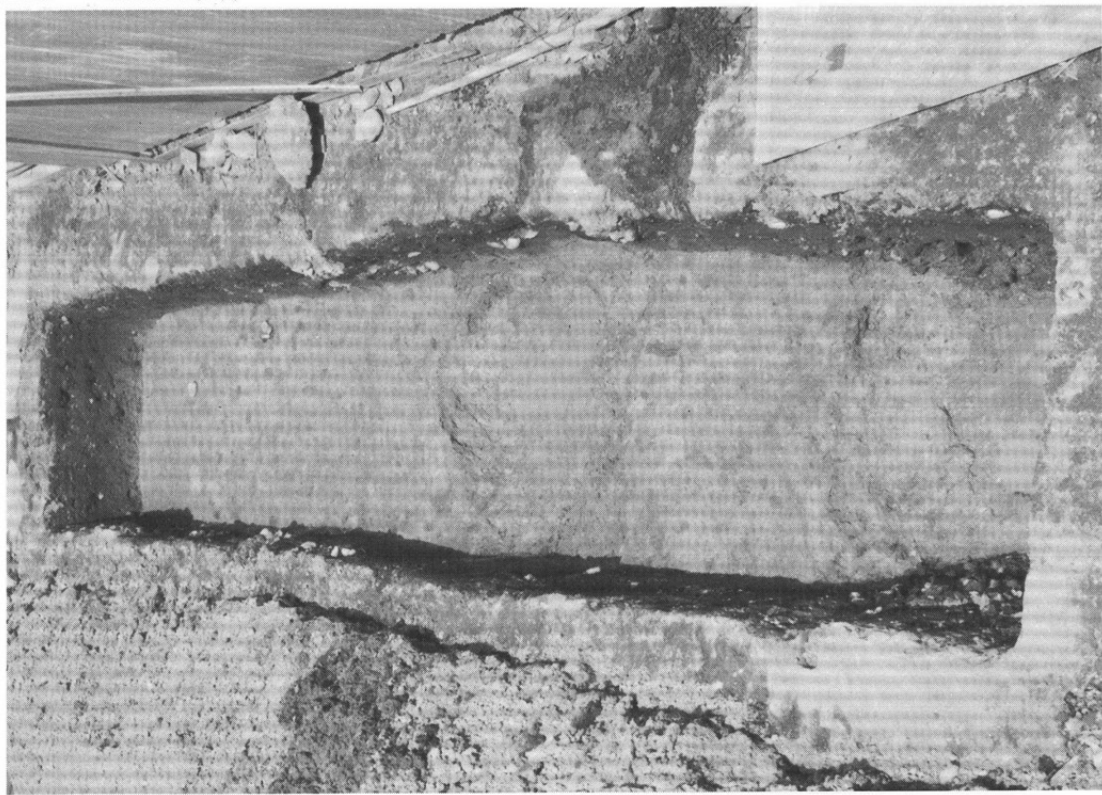
第6図 出土銭貨拓影（1/1）

IV ま と め

今回の調査は、東大寺北面大垣の確認を目的としたが、その目的は残念ながら果すことができなかった。また出土した遺物についても良好な資料となるべきものはない。北面大垣の確認については、今後の調査の機会を待ちたい。また今回の調査地周辺に位置した東大寺の大小の塔頭は、興福寺の塔頭とともに、中世奈良の中心ともなるもので、その調査についても今後の課題となるべきものであろう。

圖 版

図版 1 発掘区全景



2. 南から



1. 北から



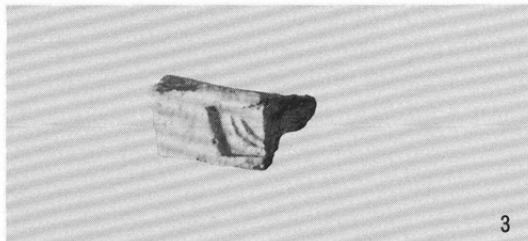
1



2



1



3

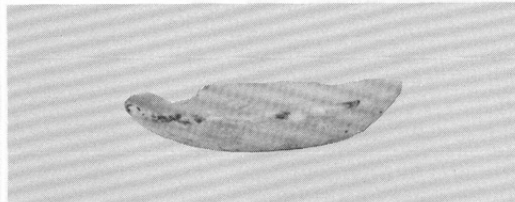
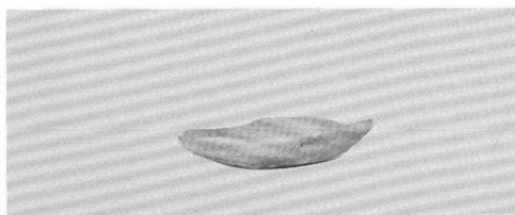
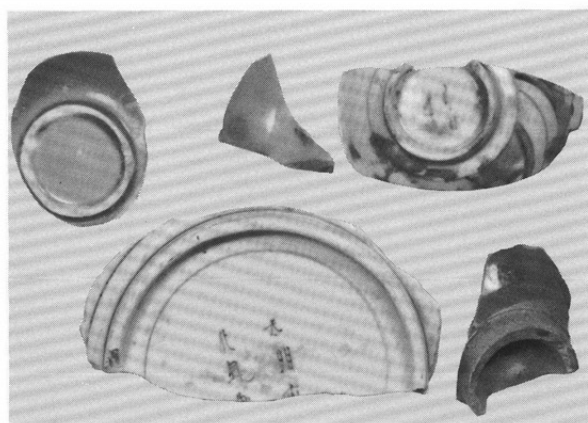


2

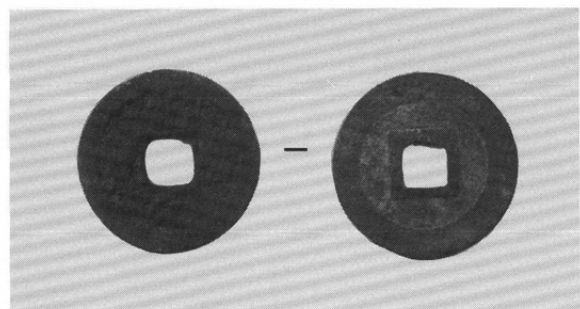


4

軒丸瓦・軒平瓦 (1/3)



陶磁器片・土師器皿 (1/3)



錢貨 (1/1)

大 安 寺 旧 境 内

発掘調査報告

例 言

1. 本書は、大安寺旧境内（史跡指定地内）の現状変更（児童遊園の建設）にともなう事前発掘調査の報告である。
1. 発掘調査は、奈良市教育委員会社会教育部文化財室が行い、現地調査は、篠原豊一が担当した。なお、調査補助員として奈良美穂、中西洋子（奈良大学学生）両氏の参加があった。
1. 発掘調査にあたっては、奈良市教育委員会社会教育部社会教育課の協力があつた。
1. 本書の執筆ならびに編集は篠原豊一が行つた。

目 次

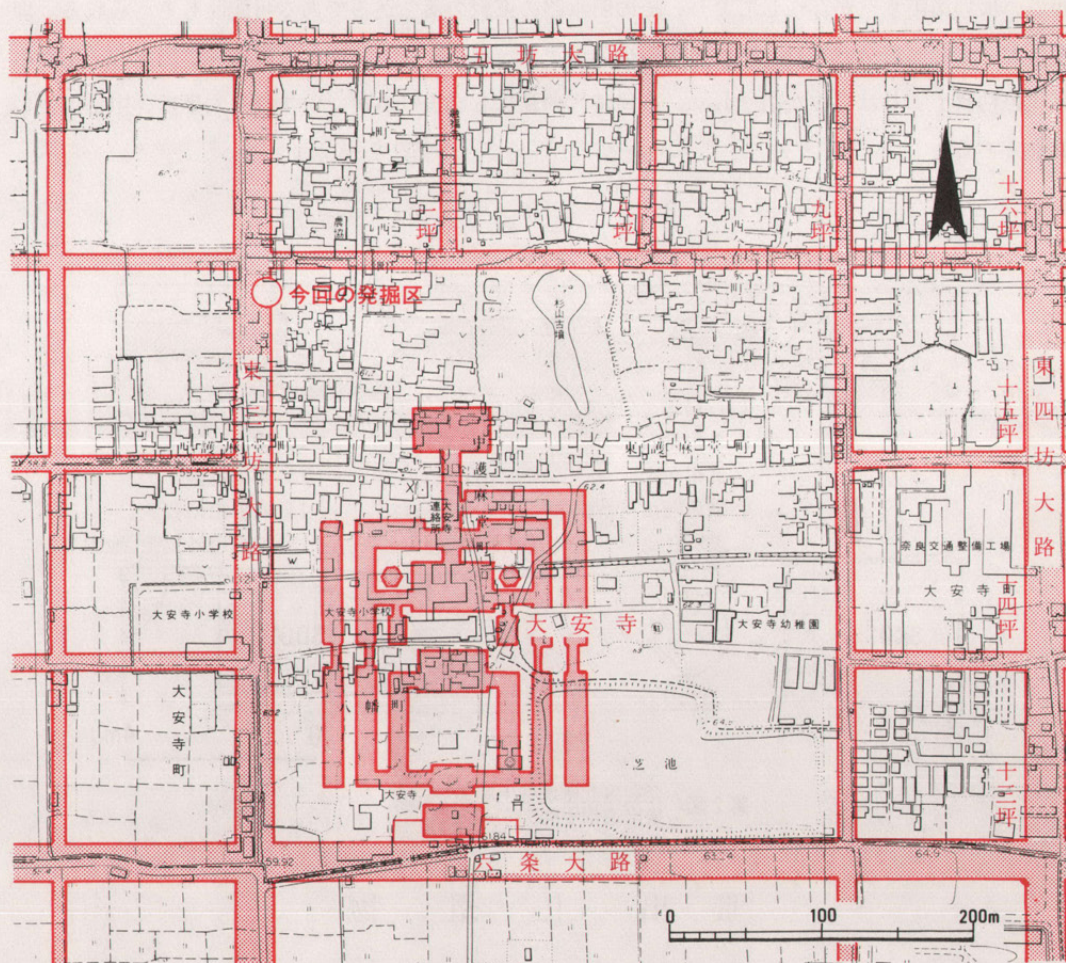
I はじめに	133
II 検出遺構	134
III 出土遺物	134
IV ま と め	136

I はじめに

本調査は、奈良市大安寺町1042、1043番地における大安寺児童遊園建設に伴う事前発掘調査として実施したものである。

調査地は大安寺主要伽藍の北西、東三坊大路東側溝および大安寺西面築地推定地にあたる。発掘調査ではその確認を目的として東西のトレンチ（幅3m、長さ18m）を設定した。調査面積は54㎡である。発掘調査は、昭和54年8月22日より同年8月26日まで行った。

調査の結果、調査地においては、近現代の攪乱が著しく、調査面積が限られたことから東三坊大路側溝、大安寺築地について確認するまでには至らなかった。



第1図 発掘区の位置と周辺の条坊 (1/5000)

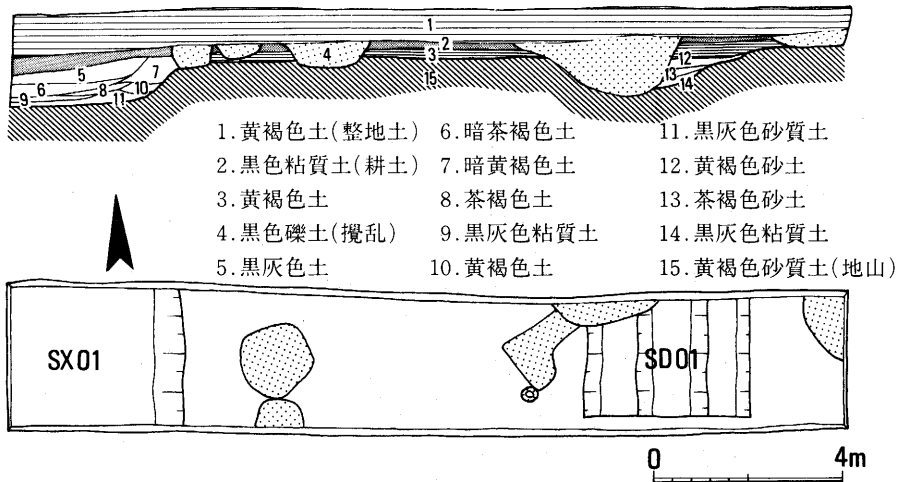
II 検出遺構

II 検出遺構

調査地は、現地表面から約80cmの厚さで黄褐色砂土によって整地されており以下黒色粘質土（耕土）、黄褐色土、が堆積し、地山である黄褐色砂質土となる。検出遺構としては溝一条と西側につながる落ち込み1ヶ所のみである。

SD01 トレンチの東寄りで検出した南北溝（幅約35m、深さ約0.6m）である。埋土は上から順に黄褐色砂土、茶褐色砂土、黒灰色粘質土が堆積しており、茶褐色砂土から瓦類、土器片、陶磁器片が出土した。

SX01 トレンチの西端で検出した落ち込みで、西側へ傾斜しトレンチ外へ広がる。トレンチ西沿いに農業用水路が存在しており、その旧水路の東肩の落ち込みである可能性も考えられる。埋土は大きく2層に分けられ、上層の暗茶褐色土より、平瓦片、丸瓦片、陶磁器片が出土し、下層の黒灰色粘質土よりは瓦片が出土した。奈良時代の瓦片も含まれるが、いずれも大半は、中、近世の遺物である。



第2図 発掘区北壁堆積土層図
 検出遺構平面図(1/150)

III 出土遺物

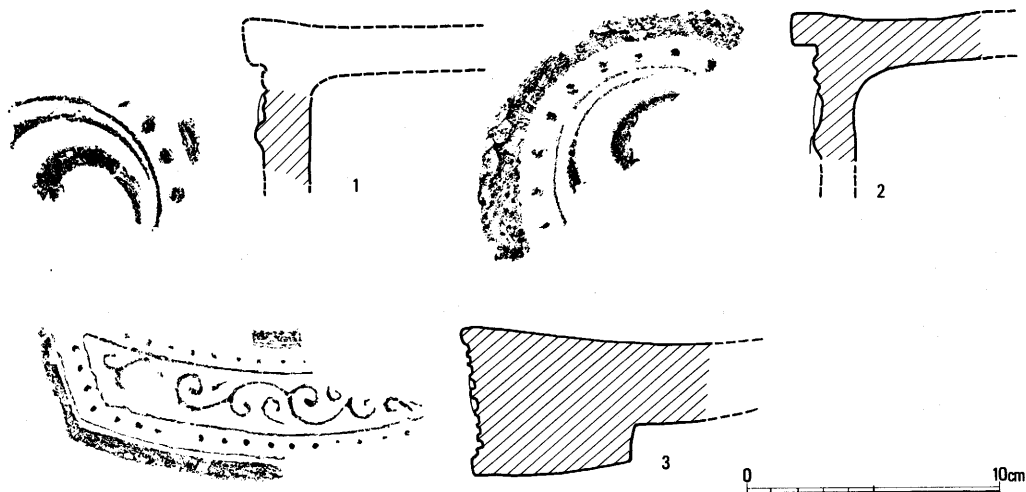
今回の調査で出土した遺物には、瓦類、土器類、陶磁器片があるが、まとまった資料となりえるものはない。

1. 瓦 類 (第3図、図版2)

瓦類では軒丸瓦2点、軒平瓦1点、平瓦、丸瓦がSD01より出土した。

軒丸瓦 1は左巻きの三巴文軒丸瓦である。巴文の尾部は明瞭に終る。内区外区と区切る圏線は太く、外区内縁には大振りな珠文を配し、外線は一段高くつくられる。2は同様の左巻き三巴文であるが、巴文の尾部は1に較べやや不明瞭に終る。圏線も細く、外区内縁の珠文も小振りである。

軒平瓦 3は均整唐草文軒平瓦である。平城宮6712型式で大安寺所用の瓦であることが知られる。



第3図 出土軒丸瓦、軒平瓦 (1/3)

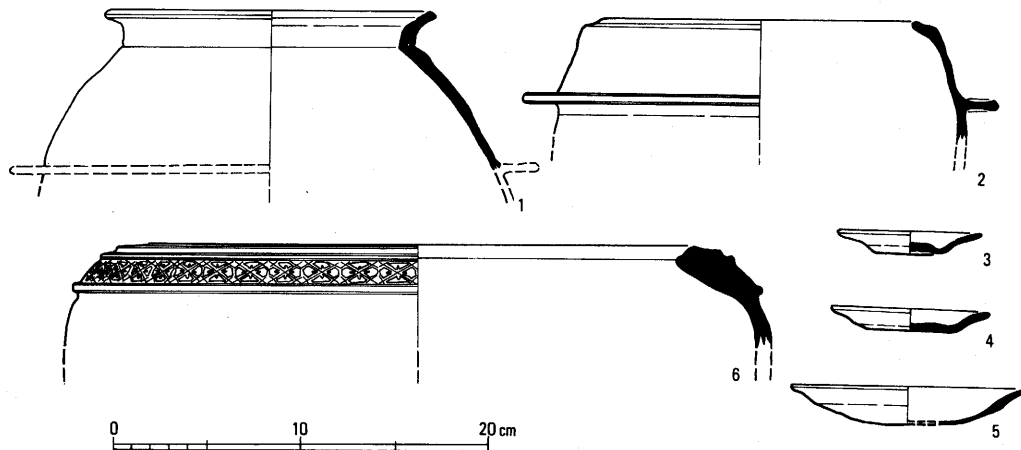
2. 土 器 類 (第4、5図、図版2)

土師器羽釜、土師器皿、瓦質土器甕、須恵器甕、瓦器片、陶磁器片があるが、遺存状態は良好でなくSD01出土のものを紹介するにとどめる。

土師器羽釜 (1、2) 口縁部が外反するもの(1)と、口縁部を内折するもの(2)がある。1は頸部がゆるやかに内彎し、口縁部ではほぼ直角に外反し、口縁端部は平坦におさめる。色調は乳白色で胎土はこまかい。2は頸部がやや内傾し、口縁部をほぼ直角に内折している。口縁端部は丸くおさめる。色調は黄灰色で胎土はこまかい。鏝部および胴部外面には炭化物が付着している。

土師器皿 (3~5) 3、4は小型のもの(口径8~9cm、器高1.2cm)で、口縁部は外反し、口縁端部は丸くおさめる。口縁部内外はよこなでを行い、底部外面は指押えする。3は底部がやや上底ぎみである。色調は黄灰色で胎土はきめこまかい。4の口縁端部に油煙状黒色物質が付着する。

IV まとめ



第4図 出土土器1. (1/4)

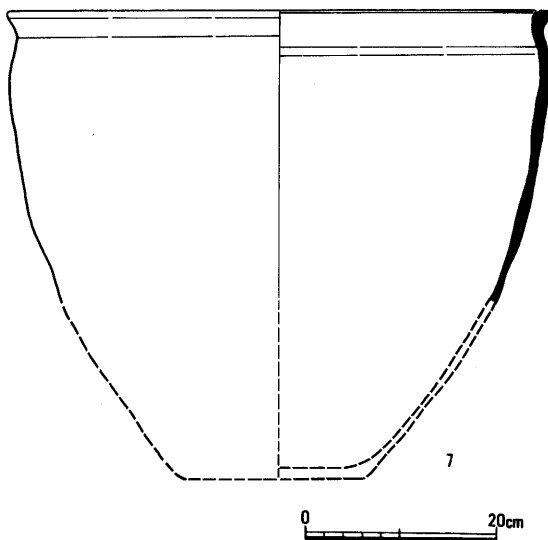
5はやや大型のもの（口径12cm、器高2cm）である。口縁部はゆるやかに外反し、口縁端部はやや尖りぎみにおさめる。口縁部内外面はよこなでを行い、口縁下端部を肥厚させる。色調は黄褐色である。

瓦質土器甕（6） 口縁部は内彎し、内側に折返し肥厚させる。口縁端部は面取りし、口縁部外面に2条の突帯を貼り付け、突帯間に花文をスタンプする。口縁部内外面はよこなでを行う。色調は淡灰褐色である。

須恵器甕（7） 胴部はほぼ直立し、端部を肥厚させ口縁部をつくる。口縁端部は面取りする。胴部内外面はよこなでを行う。色調は灰色である。

IV まとめ

今回の調査では前述したように、東三坊大路側溝および大安寺西面築地については、調査面積が狭いこともあり、その存在についての手がかりをまったく得ることはできなかった。今後とも、食堂の位置など、残された大安寺の全体像の解明のためには、周辺の十分な調査が期待される。



第5図 出土土器2. (1/3)

圖 版

図版 1 発掘区全景



1. 西から



2. 東から



1



3

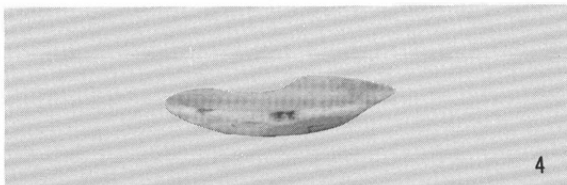


2

軒丸瓦・軒平瓦 (1/3)



1



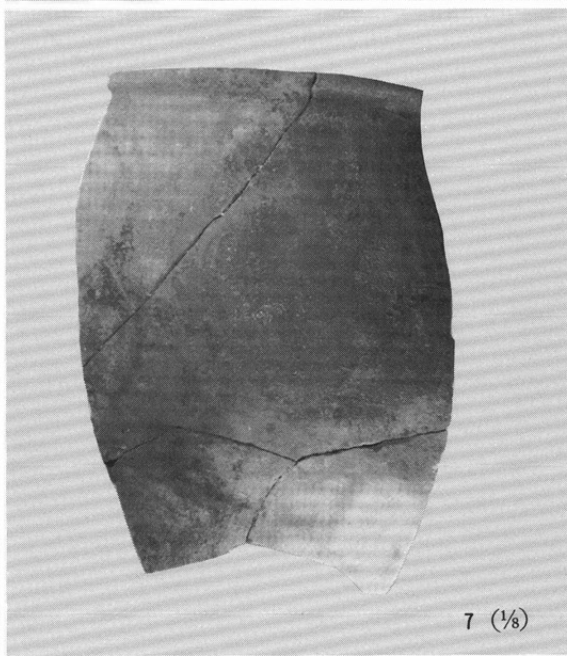
4



2



6



7 (1/4)

出土土器 (1/4)

付載 昭和55年度立会調査一覽

昭和55年度の立会調査

昭和55年度に行った立会調査は、別表に記した28件で、奈良市の実施した公共事業を中心に奈良市教育委員会が担当し、一部個人の住宅建設に伴う立会調査は、奈良県教育委員会と共同で行ったものである。そのほとんどは、掘削面積が狭いためや、掘削が浅いため、明確な遺構を検出することはなく、土層断面の観察・記録と若干の遺物の採集にとどまった。

昭和55年度立会調査一覽表

	遺 跡 名	所 在 地	事 業 内 容	調 査 期 間	備 考
80-T1	平城京右京 三条四坊四坪	宝来町	擁壁工事	S. 55. 4. 23	中世土師器片採集
80-T2	平城京左京 七条二坊七坪	八条町	用水路改修	S. 55. 5. 7	
80-T3	平城京左京 東一坊坊間路	朱雀園町	用水路改修	S. 55. 5. 7	
80-T4	平城京左京 東一坊坊間路	杏中町	用水路改修	S. 55. 5. 7	須惠器片採集
80-T5	平城京左京 七条二坊六坪	八条町	用水路改修	S. 55. 5. 8	須惠器片、土師器片、 瓦片採集
80-T6	平城京 東四坊大路	東九条町	溜池護岸工事	S. 55. 5. 8	
80-T7	東大寺旧境内	雑司町	住宅基礎工事	S. 55. 5. 12	
80-T8	平城京左京 七条二坊二坪	八条町	用水路改修工事	S. 55. 5. 20	須惠器片採集
80-T9	興福寺旧境内	菩提町	下水管理設	S. 55. 5. 22 S. 55. 5. 28	軒丸瓦・軒平瓦採集
80-T10	興福寺旧境内	登大路町	下水管理設	S. 55. 6. 30	軒平瓦・土師器片採集
80-T11	東大寺旧境内	雑司町	消火栓設置	S. 55. 8. 26 S. 55. 8. 27	
80-T12	興福寺旧境内	登大路町	環境整備	S. 55. 9. 29	瓦片採集
80-T13	平城京右京 五条四坊三坪	平松町	京西中学校校舎増築	S. 55. 9. 30 S. 55. 10. 2	
80-T14	平城京左京 四条三坊二坪	三条町	三笠中学校校舎増築	S. 55. 9. 30	
80-T15	平城京左京 八条三坊四坪	東九条町	辰市小学校校舎増築	S. 55. 9. 30	

80-T16	平城京左京 九条三坊九坪	東九条町	辰市幼稚園園舎増築	S. 55.12. 4	
80-T17	新薬師寺旧境内	高畑町	上水管理設	S. 55.12.10	石仏出土
80-T18	平城京左京 九条大路	北之庄町	道路側溝掘削	S. 55.12.23 S. 56. 1. 9	
80-T19	平城京左京 六条大路	柏木町	運動公園管理棟改築	S. 56. 1. 9	
80-T20	平城京左京 八条二坊十二坪	杏中町	用水路改修	S. 56. 1. 9 S. 56. 1.19	
80-T21	元興寺旧境内	中新屋町	住宅基礎工事	S. 56. 1.16	
80-T22	東大寺旧境内	雑司町	上水管理設	S. 56. 1.16 S. 56. 2. 2	
80-T23	唐招提寺旧境内	五条町	上水管理設	S. 56. 1.16 S. 56. 1.30	土師器片採集
80-T24	元興寺旧境内	芝突抜町	上水管理設	S. 56. 1.16 S. 56. 1.23	
80-T25	平城京左京 三条三坊十四坪	大宮町	防火水槽埋設	S. 56. 1.28 S. 56. 1.30	須惠器片・瓦器片採集
80-T26	大安寺旧境内	大安寺町	大安寺小学校校舎解体	S. 56. 2. 2	
80-T27	成務陵古墳隣接地	佐紀町	住宅基礎掘削	S. 56. 2. 7	
80-T28	平城宮北面大垣	佐紀町	下水管理設	S. 56. 3.23	瓦片採集

昭和 56 年 3 月

編集 奈良市二条大路南 1 丁目 1 - 1
発行 奈良市教育委員会
電話 (34) 1 1 1 1 (代)

印刷 共同精版印刷株式会社
奈良市三条大路 2 丁目 2 - 6
